



決勝レポート

2019/4/21 Rd-1 鈴鹿サーキット

天候：晴れ 気温：22℃ 出走台数：20台

観客数：20日(土)23,000人、21日(日)35,000人 合計58,000人

ニューマシン「SF19」が導入され、更にエンジンとタイヤもアップデートされた新生2019スーパーフォーミュラ。7名のルーキードライバーを含む20名による最速決定戦は、連日の好天のもと、多くの観客の中開幕した。

DOCOMO TEAM DANDELION RACING は、3番グリッドに山本選手、4番グリッドに福住選手と、そろって2列目から好スタートを狙う。素晴らしい蹴り出しを見せた山本選手は、1つポジションを上げて2番手で1コーナーへ。しかし、ミディアムタイヤスタートの山本選手は懸命のブロックを試みるが、ソフトタイヤとの差が大きく次々とオーバーテイクを許す苦しい展開に。福住選手はスタートで失速し7番手にまで順位を下げる。

9周目に起こったクラッシュによりセーフティカー(SC)が出動したタイミングで、チームは2台を同時にピットに呼び、ソフトタイヤへの交換と給油を済ませる。山本選手はミスなくピットを後にしたが、福住選手はエンジンがストールしてしまい、ここでも順位を下げてしまう。新オーバーテイクシステムを駆使し、タイヤをマネジメントしながら、山本選手は実質の2番手、福住選手は8番手まで順位を上げながら走行するも、福住選手にSC再スタート時のペナルティが下され、11番手となってしまう。

アクシデントによる4度のSC導入、8台がリタイヤし、7台にペナルティが下される大荒れのレースを共に完走し、山本選手は2位表彰台に、福住選手はポイント圏に届かず11位で新生スーパーフォーミュラ開幕戦を終えた。

1：山本尚貴 選手 2位 (HONDA 勢1位)

まずは素晴らしいパフォーマンスを発揮できる車を準備してくれたチームとサポート下さる協賛企業様に感謝しています。チームを移籍して初レースで、予選からポジションを上げて、荒れたレースをこの順位で帰ってこられたことがなによりも大きい収穫だと思っています。非常に良い滑り出しなので、引き続き気を引き締めてチャンピオンに向け頑張っていきます。

5：福住仁嶺 選手 11位 (HONDA 勢5位)

イメージしたスタートができず、ポイント圏内まで挽回しながら、後半では自分のミスでペナルティとなり、このような荒れた展開の中でしっかりと結果を出すことの難しさと重要性を改めて感じています。車とチームについては、週末を通してポジティブな感触を十分つかむことが出来たので、コース特性の違う、次戦オートポリスでも、引き続きモチベーション高く臨みます。